

中長期目標にかかる評価軸・指標及び達成すべき成果について（案）

※達成すべき成果（達成水準）については、B 評定相当の水準を記載

項目			評価軸	評価指標	モニタリング指標	【参考】達成すべき成果（達成水準） ※中長期計画における記載。
1. 未来を共創する研究開発戦略の立案・提言	1.1. 先見性のある研究開発戦略の立案・提言	（研究開発戦略センター業務）	【業務プロセス】 ・研究開発戦略・社会シナリオ等の立案に向けた活動プロセスが適切か。	・調査・分析の取組の進捗 － 調査・分析のための体制構築 － 多様なステークホルダーの参画 － JST 内外との連携、ネットワーク構築 等	・研究開発戦略や社会シナリオ等の品質向上の取組の進捗 － 研究開発戦略や社会シナリオの作成過程における品質管理の妥当性 － フォローアップ調査等による今後の作成活動への反映 － CRDS アドバイザリー委員会での評価、助言の反映 － LCS 戦略推進委員会での評価、助言の反映、LCS 事業評価委員会での評価、意見の反映 － 品質向上に資する組織体制の強化 等 ・様々なステークホルダーの参画（調査・分析の実施体制、WS 開催数、ヒアリング者数等） ・海外動向等に関する調査・分析の取組の進捗 － 海外調査報告書等の発行、社会シナリオへの反映 － 海外機関との連携やネットワークの構築状況 等 － 中国に関する調査報告書等の発行 － 日中間の連携やネットワークの構築状況 等 ・機構の研究開発事業及び経営等における活用状況・連動性の強化 － 機構の研究開発事業及び経営等への活用 － 戦略目標策定等における情報提供・協力 等 ・中国文献データベースの運用 － 中国文献データベースの整備状況	関連するモニタリング指標が前中期目標期間と同水準であり、下記が認められること。 ・様々なステークホルダーによる参画を得、先見性のある質の高い研究開発戦略・社会シナリオを立案する。
		（低炭素社会実現のための調査・分析及び社会シナリオ・戦略の提案）				
		（中国総合研究・交流センター事業）				
		（研究開発戦略センター業務）	【成果】 ・先見性のある質の高い研究開発戦略・社会シナリオ等を立案し、政策・施策や研究開発等に活用されているか。	・社会シナリオの立案の成果 ・研究開発戦略や社会シナリオ等の成果物や知見・情報の活用 － 関係府省・外部機関及び機構における施策等への反映 － 研究開発の新たな潮流の創造促進	・研究開発戦略等の立案の成果 － 戦略プロポーザル・研究開発の俯瞰報告書・各種報告書や社会シナリオ等の発行 － 重要トピックや優先的課題への調査・分析 等 ・成果の発信数 － 各種媒体（HP・報告書・書籍・シンポジウム等）による成果の発信 － 機構、関係府省、外部機関等への情報提供 － 講演・学会発表・寄稿等による情報発信 等 ・研究開発戦略や社会シナリオ等に基づいて実施された機構内外の研究開発成果 － 機構の研究開発事業における研究開発成果 － 関係府省、外部機関等における研究開発成果 等	関連するモニタリング指標が前中期目標期間と同水準であり、下記が認められること。 ・研究開発戦略や社会シナリオ等の成果物や提供した知見・情報が機構、関係府省、外部機関等において広く活用される。
	（低炭素社会実現のための調査・分析及び社会シナリオ・戦略の提案）					
	（中国総合研究・交流センター事業）					

項目	評価軸			評価指標	モニタリング指標	【参考】達成すべき成果（達成水準） ※中長期計画における記載。
2. 知の創造と経済・社会的価値への転換	2.1. 未来の産業創造と社会変革に向けた研究開発の推進	（未来社会に向けたハイインパクトな研究開発の推進）	【業務プロセス】	<ul style="list-style-type: none"> ・イノベーションに繋がる独自の・挑戦的な研究開発マネジメント活動は適切か ・研究開発マネジメントの取組の進捗 ・研究開発成果の展開活動の進捗 ・事業の制度設計書（公募テーマの設定プロセス，研究開発課題の選定プロセス，ステージゲート，評価等）（未） 	<ul style="list-style-type: none"> ・公募テーマ応募件数(未) ・公募テーマ設定に係るワークショップ開催数、参画専門家数、ヒアリング実施数(未) ・研究開発課題公募説明会等実施回数(未、新、先、社、産) ・研究開発課題応募件数／採択件数(未、新、先、社、産) ・サイトビジット等実施回数(未、新、先、社、産) ・産学（コンソーシアム等も含む）における情報交換実施回数(先、産) ・国際的な研究交流の場の設定回数（国際シンポジウム等）や国際的頭脳循環への参画に関する場の設定回数進捗（国際共同研究を行っている課題の割合等）(未、新、先) ・産業界からの参画規模（未、先） ・社会・産業界への展開に向けた活動の回数（未、新、先、社、産） ・研究課題及びPMの概念実証の達成に向けた進展や、マネジメントに係る外部有識者による評価結果（研究の進捗状況に応じた柔軟な事業運営、開発体制）(未) ・事業統括会議や研究開発運営会議の取組の進捗、目標達成への貢献（会議の回数，国内外の最新の動向やサイトビジット等を踏まえて軌道修正を行った課題の割合，探索研究から本格研究への移行割合などステージゲート方式によって課題の整理統合，集中投資を行った割合等）(未) ・基礎研究から実用化支援，知的財産化まで一環した事業運営に資する活動（各事業間の成果の共有のための活動）(未、新、先、社、産) 	<p>関連するモニタリング指標の数値が順調に推移し、下記が認められること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究期間（8～10年）終了時に、採択された挑戦的な研究開発課題のうち約2割が、企業等への引き渡しが可能となる技術成熟を実現する成果の創出を達成すると期待される研究開発活動を行っていること。
		（戦略的な研究開発の推進）			<p>（新技術シーズ創出研究、先端的低炭素化技術開発）</p> <p>関連するモニタリング指標が前中期目標期間と同水準であり、下記が認められること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題・領域間連携や研究者の多様性の確保、産業や社会実装への展開促進に向けた活動等の研究分野ごとの適切な領域マネジメントを行っていること。 ・国際共同研究の拡大や海外FAとの連携・深化を行っていること。 ・PD会議を通じて、研究者等からの改善要望等も踏まえた制度改善・見直しを行い、適切な事業運営をしていること。 <p>（社会技術研究開発）</p> <p>関連するモニタリング指標の数値が前中期目標期間と同水準であり、下記が認められること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実社会の具体的な問題解決や新たな科学技術の社会実装に関して生じる倫理的・法制度的・社会的課題への対応に資する研究成果を得るため及びそれらの成果の展開を促すためのマネジメントを行っていること。 	
		（産学が連携した研究開発）			<p>未：未来社会に向けたハイインパクトな研究開発の推進、新：新技術シーズ創出研究、先：先端的低炭素化技術開発、社：社会技術研究開発、産：産学が連携した研究開発</p> <p>関連するモニタリング指標の数値が前中期目標期間と同水準であり、下記が認められること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェーズに応じた優良課題の確保や次ステージにつなげるための適切な研究開発マネジメントを行っていること。 	

項目			評価軸	評価指標	モニタリング指標	【参考】達成すべき成果（達成水準） ※中長期計画における記載。
		（未来社会に向けたハイインパクトな研究開発の推進）	【成果】 未来の産業創造と社会変革に向けた新たな価値創出や経済・社会課題への対応に資する成果が生み出されているか	・研究成果の創出及び成果展開（見直しを含む）	<p>・論文数(未、新、先、産)・論文被引用数(未、新、先)</p> <p>・特許出願・登録件数(未、新、先、産)</p> <p>・外部専門家による評価により、</p> <p>－価値の高い基本特許、周辺特許の取得がなされたと思なされたもの</p> <p>－インパクトのある論文が出されたと思なされたもの</p> <p>など、研究課題の目標の達成に向け優れた進捗が認められる課題数(未、新、先、産)</p> <p>・成果の発信数(未、新、先、社、産)</p> <p>・企業等からのコンタクト数(未、先)</p> <p>・人材輩出への貢献(未、新、先)</p> <p>・受賞等(未、新、先、産)</p> <p>・研究開発の進捗状況に応じた、成果の展開や社会実装、波及効果に関する進捗(外部専門家による修了評価や追跡評価・研究者自身へのアンケート等により社会的インパクトなど顕著な研究成果や実用化等が創出されている又は創出される可能性があると思められる課題の件数、成果の展開や社会還元につながる活動が行われたと思められる課題の件数や割合、挑戦的な研究開発（目標に到達しなかったものを含む）で社会において研究成果を活用・実装する主体との協働や成果の活用などの社会還元（副次的効果、波及効果を含む）につながる活動が行われている課題の件数や割合）(未、新、先、社、産)</p> <p>未：未来社会に向けたハイインパクトな研究開発の推進、新：新技術シーズ創出研究、先：先端的低炭素化技術開発、社：社会技術研究開発、産：産学が連携した研究開発</p>	<p>関連するモニタリング指標の数値が順調に推移し、下記が認められること。</p> <p>・顕著な研究成果や実用化等、社会的インパクトのある成果が創出されていること。</p> <p>・研究開発過程で得られた知見等の活用がみられること。副次的効果、波及効果が見られる場合には当該効果について評価する。</p>
		（戦略的な研究開発の推進）				<p>（新技術シーズ創出研究）</p> <p>関連するモニタリング指標の数値が前中期目標期間と同水準であり、下記が認められること。</p> <p>・顕著な研究成果（新技術シーズ）や、実用化等、社会的インパクトのある成果が創出されていること。</p> <p>（社会技術研究開発）</p> <p>関連するモニタリング指標の数値が前中期目標期間と同水準であり、下記が認められること。</p> <p>・実社会の具体的な問題解決や新たな科学技術の社会実装に関して生じる倫理的・法制度的・社会的課題への対応に資する成果を生み出していること。</p> <p>（先端的低炭素化技術開発）</p> <p>関連するモニタリング指標の数値が前中期目標期間と同水準であり、下記が認められること。</p> <p>・中長期的な温室効果ガスの排出削減に貢献することが期待できる革新的な技術の創出につながる研究成果が創出されていること。</p>
		（産学が連携した研究開発成果の展開）				<p>関連するモニタリング指標の数値が前中期目標期間と同水準であり、下記が認められること。</p> <p>・フェーズに応じた適切な研究開発成果の創出や次ステージへの展開をしていること。</p> <p>・追跡調査等により課題終了から一定期間経過後も、制度の趣旨を踏まえつつ研究成果の展開や社会還元につながる活動が見られること。</p>

項目			評価軸	評価指標	モニタリング指標	【参考】達成すべき成果（達成水準） ※中長期計画における記載。	
2.2. 人材、 知、資金の好 循環システ ムの構築	(共創の「場」 の形成支援)	【業務プロ セス】	<ul style="list-style-type: none"> ・優良課題の確保、適切な研究開発マネジメントを行っているか ・研究開発成果の実用化促進（出資・ベンチャー支援、知財支援等）の取組は適切に機能しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究開発マネジメントの取組の進捗（優良領域・課題の作りこみ・選定の取組状況を含む） ・研究開発成果の実用化促進の取組の進捗（ベンチャー支援、大学等における知的財産マネジメント強化、大学等による研究成果の保護・活用のための取組） ・出資事業に係わるマネジメントの進捗 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業説明会等実施回数 ・応募件数（出資は除く）・出資事業への相談件数／採択件数 ・応募件数／採択件数のうち機構の基礎研究等に由来する技術シーズに基づく件数 ・サイトビジット等実施回数 ・中間評価等実施回数 	<p>関連するモニタリング指標の数値が前中期目標期間と同水準であり、下記が認められること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産学官共創の場の構築を促進するための研究開発マネジメントが適切に実施されていること。 ・フェーズに応じた優良課題の確保及び次ステージにつなげるためのマネジメントが適切に実施されていること。 ・出資判断プロセスや出資先企業への人的・技術的援助等のマネジメントが適切に実施されていること。 ・大学等における知的財産マネジメント強化、大学等による研究成果の保護・活用のための取組が適切に実施されていること。 	
	(企業化開 発・ベンチャー 支援・出資)						<ul style="list-style-type: none"> ・知財支援・特許活用に向けた活動の状況(大学負担率、委員会開催回数、JST 保有特許の管理状況) ・産学マッチング支援状況（産学マッチングの「場」等の提供回数） ・機構の研究開発事業との連携状況（連携事業数、連携回数）
	(知的財産の 活用支援)						
	(共創の「場」 の形成支援)	【成果】	<ul style="list-style-type: none"> ・産学官共創の場が形成されているか。 ・未来の産業創造と社会変革に向けた新たな価値創出や経済・社会課題への対応に資する成果が生み出されているか。 ・研究開発成果の実用化・社会還元が促進されているか（出資・ベンチャー支援、知財支援等）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・産学官共創の場の形成の進捗 ・研究成果の創出及び成果展開（見通しを含む） ・研究開発成果の実用化に向けた取組の進展（出資・ベンチャー支援、大学等における知的財産マネジメントの高度化、大学等による研究成果の保護・活用） 	<ul style="list-style-type: none"> ・論文数 ・特許出願数・登録数 ・成果の発信数 ・プロトタイプ等の件数 ・成果の展開や社会実装に関する進捗（次のフェーズにつながった件数、実用化に至った件数、民間資金等の呼び込み） ・受賞等 ・人材の糾合、育成、輩出の進展（共創の「場」の形成支援のみ） ・参画機関数（共創の「場」の形成支援のみ） ・出資件数 	<p>関連するモニタリング指標の数値が前中期目標期間と同水準であり、下記が認められること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産学官共創の場において、人材や資金の糾合等により、組織対組織の本格的産学官連携の強化につながる活動が見られること。 ・フェーズに応じた適切な研究開発成果の創出や次ステージへの展開をしていること。 ・機構の研究開発成果の実用化を目指すベンチャー企業の創出に資する研究開発や出資、ハンズオン支援を行い、その成長に貢献していること。 ・大学等における知的財産マネジメントの高度化、大学等による研究成果の保護・活用に向けた取組が着実に実施されていること。 	
	(企業化開 発・出資・ベン チャー支援型)						
	(知的財産の 活用支援)						<ul style="list-style-type: none"> ・知財支援・特許活用に向けた活動の成果（特許化率・件数、研究費受入額・件数、特許権実施等収入額・件数（総数、対ベンチャー数）） ・産学マッチング支援成果（参加者数、参加者の満足度、マッチング率） ・機構の研究開発事業との連携成果（連携に基づく特許取得数）

項目			評価軸	評価指標	モニタリング指標	【参考】達成すべき成果（達成水準） ※中長期計画における記載。
2.3. 国境を越えて人・組織の協働を促す国際共同研究・国際交流・科学技術外交の推進	（国際的な科学技術共同研究等の推進）	【業務プロセス】	・国際共通的な課題の達成や我が国及び相手国の科学技術水準向上に資する国際的な枠組みの下実施される共同研究等のマネジメントは適切か	・共同研究マネジメントの取組の進捗・イノベーションにつながるような諸外国との関係構築への取組の進捗 -研究フェーズ、相手国プログラム等に応じた制度の適用	・応募件数／採択件数・日本国側研究提案数、相手国側研究提案とのマッチング率・参加国の拡大や適切な領域の設定に向けた取組の進捗	関連するモニタリング指標の数値が前中期目標期間と同水準であり、下記が認められること。 ・国際共通的な課題の達成や我が国及び相手国の科学技術水準向上に資する国際的な枠組みの下実施される共同研究マネジメント、及びイノベーションにつながるような諸外国との関係構築について適切な取組が行われていること。
		（外国人宿舎）	・科学技術交流を促進するための取組は適切か	科学技術交流促進の取組の進捗 一外国人研究者宿舎の入居に向けた取組状況 一青少年交流プログラムの取組状況	・招へい者数（国別）	・外国人研究者宿舎の入居者に対するアンケート結果を参照して、宿舎の運営や各種生活支援サービスの提供を効果的に実施していること。
		（海外との青少年交流の促進）				・アジアの各国の科学技術・教育関連の省庁や公的機関等と連携し、招へいする青少年の選抜スキームが、特に優秀な者を選抜できるスキームとなるよう、効果的に実施していること。 ・関係する機関とも連携して、招へい者が帰国後も日本の科学技術に対して高い関心を継続するよう取組を実施していること。
	（国際的な科学技術共同研究等の推進）	【成果】	・国際共通的な課題の達成や我が国及び相手国の科学技術水準向上に資する研究成果や科学技術外交強化への貢献が得られているか	・研究成果の創出及び成果展開（見通しを含む） ・諸外国との関係構築・強化 一経営層のトップ外交等による科学技術外交上の成果 一機構他事業の国際展開	・成果の発信数 ・論文数 ・特許出願件数 ・相手国への派遣研究者数、相手国からの受入れ研究者数	関連するモニタリング指標の数値が前中期目標期間と同水準であり、下記が認められること。 ・国際共通的な課題の達成や我が国及び相手国の科学技術水準向上に資する研究成果を得るとともに、科学技術外交強化に貢献すること。 ・目標の達成に資する十分な成果が得られた課題と社会実装に向けた次のフェーズへの展開が図られた課題の割合が前中期計画の達成指標と同水準であること。
	（外国人宿舎）	・科学技術イノベーション人材の獲得に資する交流が促進されているか	・イノベーション人材の獲得 一外国人研究者の受入れへの貢献（外国人研究者宿舎の入居数） 一科学技術人材の交流・獲得促進（アンケート結果、再来日者の状況）	・入居率 ・入居者への退去時アンケート調査における満足度	・滞在期間が平均 3 か月程度となることを想定し、毎年 600 人以上の入居を通じて外国人研究者の受入れに貢献する。	
	（海外との青少年交流の促進）				・本プログラムに参加した青少年について、評価対象年度までの招へい人数の合計に対する評価対象年度までの再来日者数が毎年 1 %以上になること。 ・受入れ機関の 4 割以上において本プログラムを契機に再来日または新規の招へいにつながったと回答が得られること。 ・本プログラムに参加した青少年に対して、アンケート調査を実施し、8 割以上から、本プログラムの参加により、日本の科学技術に対する印象について、肯定的な回答を得ること。	

項目				評価軸	評価指標	モニタリング指標	【参考】達成すべき成果（達成水準） ※中長期計画における記載。
							<ul style="list-style-type: none"> ・特に機構が招へいして本プログラムに参加した青少年に対して、アンケート調査を実施し、8割以上から、将来の日本への留学、就職または日本での研究に関心がある等の肯定的な回答を得ること。

項目		評価軸	評価指標	モニタリング指標	【参考】達成すべき成果（達成水準） ※中長期計画における記載。	
2.4. 情報基盤の強化	（科学技術情報の流通・連携・活用の促進）	【業務プロセス】	・効果的・効率的な情報収集・提供・利活用に資するための新技術の導入や開発をすることができたか ・ユーザニーズに応えた情報の高度化、高付加価値化を行っているか	・サービスの高度化への取組の進捗 ・情報分析基盤の整備への取組の進捗	・サービスの効果的・効率的な運用 ・経営改善計画の策定・進捗	・情報の流通を促進するため、他の機関・サービスとの連携を拡充する。 ・様々な学問分野の科学技術に関する論文その他の文献情報を抄録等の形式で整備することにより科学技術情報基盤の充実をするにあたっては、新たな経営改善計画を策定し、その内容を着実に実施する。
	（ライフサイエンスデータベース統合の推進）		・ライフサイエンス分野の研究推進のためのデータベース統合の取組は適切か	・JST 内外との連携を含めたライフサイエンスデータベース統合化への取組の進捗	・採択課題へのサイトビジット等実施回数 ・ライフサイエンスデータベース統合における府省や機関等との連携数	関連するモニタリング指標が前中期目標期間と同水準であり、下記が認められること。 ・ライフサイエンスデータベース統合化の基盤となる研究開発、分野毎のデータベース統合化及び統合システムの拡充にオープンサイエンスの観点から取り組むこと。 ・ライフサイエンスデータベースに関連する府省や機関との連携等に取り組むこと。
	（科学技術情報の流通・連携・活用の促進）	【成果】	・科学技術イノベーションの創出に寄与するため科学技術情報の流通基盤を整備し、流通を促進できたか	・サービスの利用調査結果 ・分析ツールの提供、分析実施	・サービスの効果的・効率的な提供（稼働率、書誌情報の整備件数） ・政策決定のための日本の科学技術情報分析基盤の整備	・データベースの利用件数（研究者、研究成果等の詳細情報の表示件数）について中期目標期間中の累計で 42,000 万件以上とすることを目指す。 ・電子ジャーナル出版のための共通プラットフォームに登載する論文のダウンロード件数について、中期目標期間中の累計で 35,000 万件以上とすることを目指す。 ・本事業で提供するサービスの利用者に対して調査を行い、回答者の 8 割以上から有用であるとの肯定的な回答を得る。
	（ライフサイエンスデータベース統合の推進）		・ライフサイエンス研究開発の活性化に向けたデータベース統合化の取組は、効果的・効率的な研究開発を行うための研究開発環境の整備・充実に寄与しているか	・ライフサイエンス分野のデータベース統合化における成果	・ライフサイエンスデータベース統合数 ・ライフサイエンス統合データベースアクセス数等	関連するモニタリング指標が前中期目標期間と同水準であり、下記が認められること。 ・連携、データ公開及びデータ共有の進展並びにデータベース利活用の観点から、ライフサイエンス分野のデータベースの統合に資する成果やライフサイエンス研究開発の活性化に資する成果を得ること。

項目				評価軸	評価指標	モニタリング指標	【参考】達成すべき成果（達成水準） ※中長期計画における記載。
2.5. 革新的 新技術研究 開発・戦略的 イノベーション 創造の 推進	（革新的新技 術研究開発業 務）	【業務プロ セス】	・研究開発を推進するための PM マネジメント支援体制は 適切か	・PM 雇用者としての環境整備 状況 ・PM の業務を支援する体制の 適切性	・大学等との連携状況 ・PM 補佐（研究開発マネジメント・運営担当）、業務 アシスタントの充足状況	・革新的な新技術の創出に係る研究開発を行い、実現 すれば産業や社会の在り方に大きな変革をもたらす科 学技術イノベーションの創出を目指す。	
		【成果】	・研究開発を推進するための 適切な PM マネジメント支援 が出来ているか	・PM の雇用状況 ・研究開発プログラムの作り込 み支援の適切性 ・PM がハイリスク・ハイイン パクトな研究プログラムに取り 組むための支援状況 ・政策目的に照らした、適切な 広報・アウトリーチ活動の実施 状況	・レビュー会の開催回数 ・プログラム・マネジメントについての PM への研修、 PM に対する講演等の実施状況、回数 ・ImPACT の実施規約の締結数、機関数 ・PM 活動に関するアウトリーチ活動状況（実施・支援 件数） ・革新的研究開発推進会議及び革新的研究開発推進プロ グラム有識者会議の報告回数		

項目				評価軸	評価指標	モニタリング指標	【参考】達成すべき成果（達成水準） ※中長期計画における記載。
3. 未来共創の推進と未来を創る人材の育成	3.1. 未来の共創に向けた社会との対話・協働の深化	（未来の共創に向けた社会との対話・協働の深化）	【業務プロセス】	<ul style="list-style-type: none"> ・科学技術と一般社会をつなぐ科学コミュニケーション活動は適切か 	<ul style="list-style-type: none"> ・科学コミュニケーション活動の取組の進捗 ・機構内や外部機関と協業した様々なステークホルダー間の対話・協働の場の創出・提供状況。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対話・協働の場創出に向けた取組の進捗（日本科学未来館の来館者数、科学技術と社会の対話の場の開催件数・参加人数） ・研究者に向けた科学コミュニケーション研修の実施 ・JST 研究成果のアウトリーチ取り組み状況 ・科学コミュニケーターの輩出数 	<p>関連するモニタリング指標の数値が順調に推移し、下記が認められること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学技術と社会をつなぐ科学コミュニケーション活動を行う人材（科学コミュニケーター）を継続的に育成し、国内外の様々なステークホルダーとの対話・協働を推進していること。 ・研究者と一般市民との対話・協働の場を創出・提供していること。
		（未来の共創に向けた社会との対話・協働の深化）	【成果】	<ul style="list-style-type: none"> ・多様なステークホルダーが双方向で対話・協働し、科学技術イノベーションと社会との関係を深化させているか。 ・研究開発戦略立案活動と有効に連携しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究開発活動に資する取組の展開 <ul style="list-style-type: none"> ー研究コミュニティ等と協業した、来館者の意見・反応の集約と活用 ー研究プロジェクト等と連携した、来館者を被験者とする実証実験等の取組状況 ・研究者の対話の場への自律的な参画 <ul style="list-style-type: none"> ーサイエンスアゴラ等、科学技術と社会の対話の場への研究者の参画状況 ・科学コミュニケーション活動の社会実装 <ul style="list-style-type: none"> ー国内外他機関と連携した科学コミュニケーション活動の自律的な取組状況等 ・一般社会のニーズ・意見等の研究開発、政策提言等への反映 ・研究者の意識改革 <ul style="list-style-type: none"> ー一般社会へ向き合う姿勢の涵養と共創活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・科学技術と社会の対話の場への研究者参画数 ・対話・協働実践者に対するアンケート調査結果 ・科学コミュニケーション活動実施者に対する支援の応募件数・採択件数 	<p>関連するモニタリング指標の数値が順調に推移し、下記が認められること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機構は、多様な科学技術コミュニケーション活動において、日本科学未来館等を活用し、社会における科学技術への期待や不安等の声を収集するとともに、研究開発戦略や政策提言・知識創造へ活かす取組を行う。また、アウトリーチ活動を行う研究者等、科学技術コミュニケーション活動の実施者を支援する。 ・機構が実施するサイエンスアゴラ等において、企画提供者・来場者における研究者数を、平成 28 年度時点に比べ 2 倍増加させる。また、研究者が様々なステークホルダーとの対話・協働を通じて社会へ向き合う意識の涵養に向けた取組を拡充する。その研究者への追跡調査を行い、7 割以上から、社会と向き合う取組を継続した、との回答を得る。 ・機構は、オープンサイエンスを促進する観点から、研究者が日本科学未来館等を活用して、非専門家が参加する実証実験や、様々なステークホルダーと進める共同研究等を推進するとともに、科学コミュニケーション活動が社会的に実装されるよう取り組む。

項目				評価軸	評価指標	モニタリング指標	【参考】達成すべき成果（達成水準） ※中長期計画における記載。
3.2. 次世代の科学技術を担う人材の育成	（次世代の科学技術を担う人材の育成）	【業務プロセス】	<p>（実施事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> 次世代の科学技術人材育成に向け適切に取り組んでいるか 継続的に科学技術人材を輩出するための仕組みづくりに努めているか <p>（支援事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援機関に効果的な支援を実施出来ているか 	<p>（実施事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> 次世代の科学技術人材育成に向けた取組の進捗 <ul style="list-style-type: none"> 業務改革・見直しへの取組状況 実施機関等の支援の更なる改善に向けた取組状況 先進的な理数教育に関する取組の普及 <p>（支援事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> 次世代の科学技術人材育成に向けた取組の進捗 <ul style="list-style-type: none"> 業務改革・見直しへの取組状況 実施機関等の支援の更なる改善に向けた取組状況 先進的な理数教育に関する取組の普及 	<p>（実施事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業の実施・支援体制整備への取組の進捗・事務処理件数 生徒・教員等の参加者数 高大連携等を実施した大学数 JST内外との連携への取組状況 支援対象機関からの評価 <p>（支援事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業の実施・支援体制整備への取組の進捗・事務処理件数 生徒・教員等の参加者数・高大連携等を実施した大学数 JST内外との連携への取組状況 支援対象機関からの評価 SSH中間評価の結果 事業に参加した児童生徒の資質・能力 	<p>関連するモニタリング指標が前中期目標期間と同水準であり、下記が認められること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 業務改革・見直しや実施機関等の支援の更なる改善及び理数教育に関する取組の普及など、次世代の科学技術人材育成に向けた取組が適切に実施されていること。 	
		【成果】	<p>（実施事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> 次世代の科学技術人材が継続的・体系的に育成できているか <p>（支援事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援機関が持続的運営に向けて効果的な活動を行っているか 	<p>（実施事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> 科学技術人材の輩出状況 取組の波及・展開状況 <p>（支援事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> 科学技術人材の輩出状況 取組の波及・展開状況 	<p>（実施事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> 取組に参加した児童生徒等の興味・関心の向上 <ul style="list-style-type: none"> アンケート調査による肯定的な回答の割合 取組に参加した児童生徒等の資質・能力の伸長 <ul style="list-style-type: none"> 取組に参加した生徒の研究成果を競う国際科学競技大会等への出場割合 次世代の科学技術人材育成（追跡調査による活躍状況の把握） 理数好きの児童生徒等の研鑽・活躍の場の構築及び参加者数の確保 <ul style="list-style-type: none"> 科学の甲子園等の参加者数 次世代の科学技術人材育成に対する社会からの理解と協力の獲得 <ul style="list-style-type: none"> 協賛企業あるいは協賛金額 海外の青少年との交流状況 <p>（支援事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> 取組に参加した児童生徒等の興味・関心の向上 <ul style="list-style-type: none"> アンケート調査による肯定的な回答の割合 取組に参加した児童生徒等の資質・能力の伸長 <ul style="list-style-type: none"> 取組に参加した生徒の研究成果を競う国際科学競技 		<p>関連するモニタリング指標が前中期目標期間と同水準であり、下記が認められること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業を通じて輩出された人材の活躍状況の事例や次世代の科学技術人材育成に向けた取組の波及・展開の事例など、次世代の科学技術人材が継続的・体系的に育成されていること。

項目	評価軸	評価指標	モニタリング指標	【参考】達成すべき成果（達成水準） ※中長期計画における記載。
			大会等への出場割合 ・次世代の科学技術人材育成（追跡調査による活躍状況の把握） ・支援機関の持続的運営に向けた効果的な支援の実施 ・SSHによる展開 －SSH指定校が地域の拠点校として、生徒の交流や、事業の成果を広める活動を含め、先進的な理数系教育を実施していること。 －人材育成を図るための理数系教育の教育課程に関する研究開発が学習指導要領改訂の検討に資すること。 ・次世代の科学技術人材育成に対する社会からの理解と協力の獲得 －協賛企業あるいは協賛金額 ・海外の青少年との交流状況	

項目		評価軸	評価指標	モニタリング指標	【参考】達成すべき成果（達成水準） ※中長期計画における記載。	
3.3. イノベーションの創出に資する人材の育成	(科学技術イノベーションに関与する人材の支援)	【業務プロセス】	・人材の育成・活躍に向けた取組状況	・人材の育成・活躍に向けた取組の進捗 －JREC-IN Portal サービスの高度化への取組状況 －PM 研修の有効かつ実践的なプログラムの実施に向けた取組状況 －研究機関における有益な研究倫理研修会の取組状況・他機関との連携の進捗 －JREC-IN Portal の JST 内外との連携状況 -PM 研修における募集・実施・人材活用に向けた他機関との連携状況	・サービス等の効果的・効率的な運用・プログラム・マネージャー研修の研修生受入・受講数・研究倫理研修会の実施回数、参加者数	・人材の育成・活躍に向けた有効な取組を実施するとともに、必要に応じた改善を行っていること。 ・事業の改善・強化等に向け、他機関と効果的な連携を行っていること。 ・調査・アンケートにおいて、研究倫理研修の参加機関における意欲的な取組状況を把握し、必要に応じて改善を行っていること。
	(プログラム・マネージャーの育成)					
	(公正な研究活動の推進)					
	(科学技術イノベーションに関与する人材の支援)	【成果】	・科学技術イノベーションに資する人材を育成・活躍させる仕組みを構築し、それぞれの目的とする人材の活躍の場の拡大を促進できたか	・制度・サービス利用者等からの肯定的な反応 －JREC-IN Portal サービスの利用状況 －PM 研修修了者の満足度 ・制度・サービスの実施・定着 －PM 研修で JST 内外の事業における実践的なマネジメント体験の仕組みを構築し取組を充実できているか －研究倫理研修会における実施内容の有効性	・サービス等の効果的・効率的な提供 (JREC-IN Portal コンテンツの整備状況、稼働率、PM 研修修了生所属機関の満足度、研究倫理研修会のアンケートによる参加者の満足度、研究倫理研修会への参加希望の充足率) ・JREC-IN Portal 利用登録者数 ・人材の輩出・活躍や政策への貢献 (人材政策立案に資する JREC-IN Portal のデータの提供、PM 人材輩出への貢献状況)	・調査・アンケートにおいて、制度・サービスの利用者から有用であるもしくは満足しているとの回答を回答者の 8 割以上 (科学技術イノベーションに関与する人材の支援、PM の育成) から得る。 ・制度の実施・定着に向け、 －PM 研修において JST 内外の事業における実践的なマネジメント体験の仕組みを構築し、その取組を充実させていくこと。 －研究倫理研修に参加した機関における研究倫理教育の普及・定着や高度化に向けての取組が充実していること。
	(プログラム・マネージャーの育成)					
	(公正な研究活動の推進)					